

## 東海地方の天候（令和7年1月）

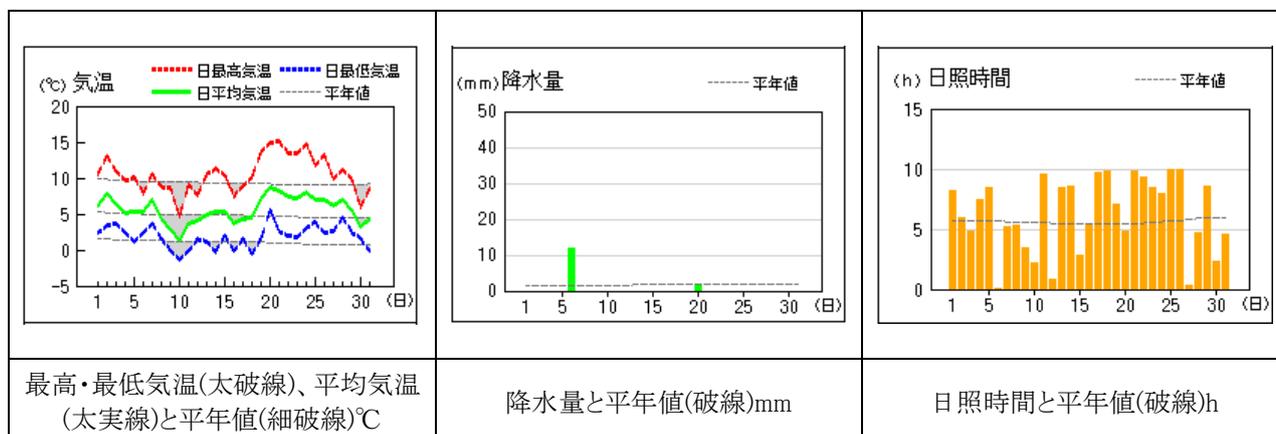
### 1 概況

冬型の気圧配置や高気圧に覆われて晴れた日が多くなり、低気圧の影響を受けにくくなりました。このため、月間日照時間はかなり多く、月降水量は少なくなりました。特に月間日照時間は平年比120%となり、1946年の統計開始以降、1月として1位の多照となりました。上旬の終わりから中旬のはじめにかけては寒気の影響を受けましたが、その他は寒気の影響を受けにくかったため、月平均気温は高くなりました。

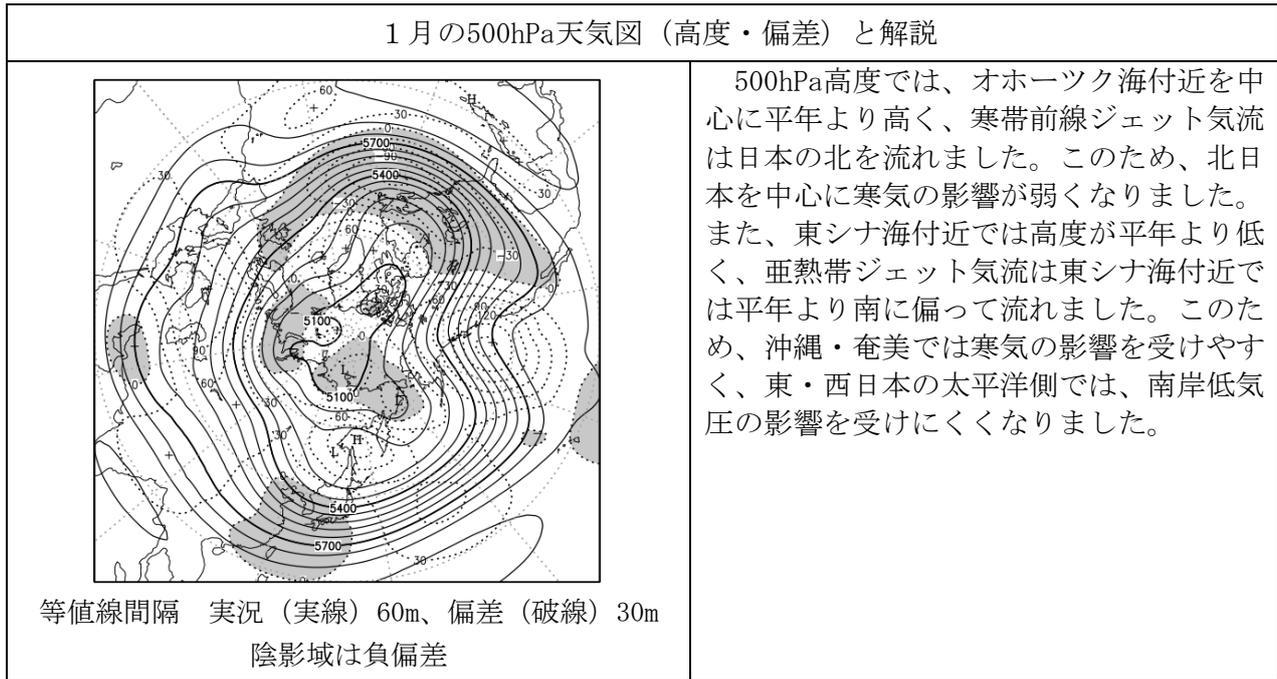
月平均気温は「高い」、月降水量は「少ない」、月間日照時間は「かなり多い」となりました。

旬ごとの概況	
上旬	<p>冬型の気圧配置となりやすく晴れた日が多くなったため、旬間日照時間は多くなりました。旬の中頃には本州の南岸を低気圧が通過して、この時期としてはまとまった雨となったため、旬降水量は多くなりました。また、岐阜県山間部では、曇りや雪の日が多くなり、旬の終わりには強い寒気が流入したため大雪となり、平地でも積雪となった所がありました。</p> <p>旬の平均気温は「平年並」、降水量は「多い」、日照時間は「多い」となりました。</p>
中旬	<p>旬のはじめと終わりに低気圧の影響で曇りや雨の日がありましたが、冬型の気圧配置や高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。このため旬降水量はかなり少なく、旬間日照時間は多くなりました。</p> <p>旬の平均気温は「平年並」、降水量は「かなり少ない」、日照時間は「多い」となりました。</p>
下旬	<p>旬の中頃までは高気圧に覆われた日が、その後は冬型の気圧配置の日が多くなり、晴れた日が多くなりました。このため旬降水量はかなり少なく、旬間日照時間はかなり多くなりました。特に旬間日照時間は平年比130%となり、1961年の統計開始以降、1月下旬として1位の多照となりました。また、旬の終わりに強い寒気が流入した日もありましたが、旬を通して寒気の影響を受けにくかったため旬平均気温は高くなりました。</p> <p>旬の平均気温は「高い」、降水量は「かなり少ない」、日照時間は「かなり多い」となりました。</p>

### 参考 時系列図（名古屋地方気象台）



## 2 大気の流れの特徴



## 3 各地の気象台・特別地域気象観測所の実況

地点名	平均気温(平年差) 階級		降水量(平年比) 階級		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級		降雪深さ(平年値) 階級		最深積雪(平年値) 階級						
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)					
静岡	7.4	(+0.5)	+	33.5	(42)	-	4	234.5	(113)	+	-	(0)	-	(-)		
浜松	6.9	(+0.6)	+	37.5	(63)	-	3	228.5	(111)	+	( )	( )	( )			
御前崎	7.6	(+0.7)	+	73.5	(93)	○	2	222.4	(109)	+	( )	( )	( )			
三島	6.4	(+0.5)	+	41.5	(57)	-	3	206.9	(111)	+	( )	( )	( )			
石廊崎	9.0	(+0.8)	+	36.0	(53)	-	3	204.5	(112)	+	( )	( )	( )			
網代	7.8	(+0.8)	+	30.0	(39)	-	1	172.0	(117)	+	( )	( )	( )			
名古屋	5.6	(+0.8)	+	14.0	(28)	-	2	194.0	(111)	+	1	(4)	○	1	(3)	○
伊良湖	6.7	(+0.7)	+	22.0	(36)	-	2	212.3	(118)	+*	( )	( )	( )			
岐阜	5.4	(+0.8)	+	21.0	(32)	-	2	195.9	(121)	+*	10	(14)	○	10	(10)	○
高山	-0.2	(+1.0)	+	62.5	(61)	-	10	127.8	(138)	+*	85	(117)	-	26	(44)	-
津	6.3	(+0.6)	+	14.0	(29)	-	3	205.4	(126)	+*	-	(2)	-	-	(2)	-
上野	3.7	(+0.2)	○	18.0	(35)	-*	4	179.8	(144)	+*	( )	( )	( )	( )		
尾鷲	7.0	(+0.5)	+	37.5	(35)	-	3	208.8	(116)	+	( )	( )	( )	( )		
四日市	5.1	(+0.8)	+	18.5	(33)	-	2	193.7	(127)	+*	( )	( )	( )	( )		
東海地方	---	(+0.7)	+	---	(45)	-	--	---	(120)	+*	--	(--)	-	--	(--)	--

注) 1. 平年値は1991～2020年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い)    ○:平年並    -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。また、値が1991～2020年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に\*を付加した。この場合には以下のように表現できる。

かなり高い(多い)    かなり低い(少ない)

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に「) や ]」がある場合は、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができる。]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にするとともに、階級についても値と同様の品質であることに留意して使用されたい。なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

## 4 令和7年（2025年）1月の順位更新表

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月間日照時間多い方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h（西暦年）	開始年	平年値 h
1	上野	179.8	144	155.4（2021）	1938	125.0
2	四日市	193.7	127	193.8（2014）	1967	152.2
3	高山	127.8	138	143.4（1932）	1902	92.9

### 参考資料 平年並の範囲（東海地方）

1月	平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
上旬	-0.6 ～ +0.4℃	34 ～ 136%	98 ～ 108%
中旬	-0.5 ～ +0.4℃	48 ～ 106%	93 ～ 108%
下旬	-0.8 ～ +0.3℃	46 ～ 80%	95 ～ 107%
月	-0.2 ～ +0.1℃	64 ～ 109%	96 ～ 106%

### 資料の解説

- 当資料に掲載されている天候の特徴や統計値は、現時点で得られている資料を取りまとめた速報です。
- 「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の階級は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が10個ずつになる）ように決めています。また、値が1991～2020年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い（少ない）」「かなり高い（多い）」と表現します。
- 岐阜県の「山地」と「岐阜県山間部」について  
岐阜県の天気予報では、標高500mより高い地域を「山地」、低い地域を「平地」として大雪警報や注意報、また降雪量の予想などを発表しています。一方、季節予報や週間天気予報では、冬季に東海地方の他の地域と比べて気候的に曇りや雪の日が多い、岐阜県飛騨地方の全域と美濃地方の山地を合わせた地域を「岐阜県山間部」と呼んでいます。